全体的な業務の目的、取り組み方針

参加型未来づくりプロジェクトの始動！

先人たちの自由闊達な気風を継承・発展させて「古の文化と新たな文化」を体験できるオンリーワンの観光文化都市づくりを目指します。

蒲生氏郷公は、先進的な発想で松阪のまちを拓き、茶の文化を後世に遺します。自由闊達な気風の中で、本居宣長は「古事記」に光をあて、「源氏物語」の中に日本人のこころ「もののあわれ」を発見します。「越後屋」で知られる豪商・三井家の発祥の地であり、江戸の服飾文化を一変させた「松阪もめん」の長谷川邸が軒を連ねます。郷土の先人たちは、今日に連なる日本文化の形成に大きな役割を果たしてきました。そして、松阪のまちは、今なお、その面影を随所にとどめています。
先人たちの自由闊達な気風をオール松阪で継承・発展させて、由緒ある歴史文化を表出するとともに、その歴史文化に根ざした新たな文化をも創造し続ける観光文化都市の実現をめざします。

市民参画による本事業の展開

これからの松阪・観光文化都市をつくりだしていく仕組み

古の文化と本物の観光資源

茶の文化　本居宣長　蒲生氏郷　豪商　松阪もめん

受け継ぐ

松阪歴史文化アーカイブス事業

松阪の先人たちの足跡、松阪の土地の記憶、歴史的建築物など、松阪独自の数多くの歴史文化コンテンツを収集・保存することで、松阪のまちづくりに活用していく基盤とします。

松阪市民と周辺住民

参画
自己啓発・触発
新たな取り組みへ

ボランティア、文化活動団体
市民、若者、商工会、商店街等

〈事業推進のエンジン〉

松阪経営文化塾

４つの研究会

本居宣長研究会　近世商人研究会
松阪もめん研究会　食文化研究会

松阪ゆかりの人々

参加
新たな発想や着想
最新の学術研究成果

学識者、有識者、文化人
財界人、マスコミ、観光事業者

市民参画のキーワード

『つむぎ直す』

松阪の歴史文化のもつ魅力を「見える化」（由緒を語る）、現代的な感覚をもって、歴史文化に根ざした新たな文化をつむぎだしていく発展的事業とします。

本事業の目標
ハードとソフト整備

松坂城ガイダンス　松阪もめんブランド展開　観光交流拠点施設　旧長谷川邸公開　三井家発祥の地整備　観光サイン

魅力の表出事業
文化の創造事業

教養と実業の聖地・松阪の実現

関係者が共有・発信する事業のイメージ
〈キャッチコピー案〉

『あいいろ松阪』

PR プロモーション展開

「あいいろ」とは、松阪の地への愛着と歴史的文化への誇り
ブランド松阪もめんの藍色、人々との出逢いと交流

観光交流拠点施設の基本的考え方

「松阪観光」のゲートウエイ　（「松阪観光」のガイダンス施設）

（仮称）

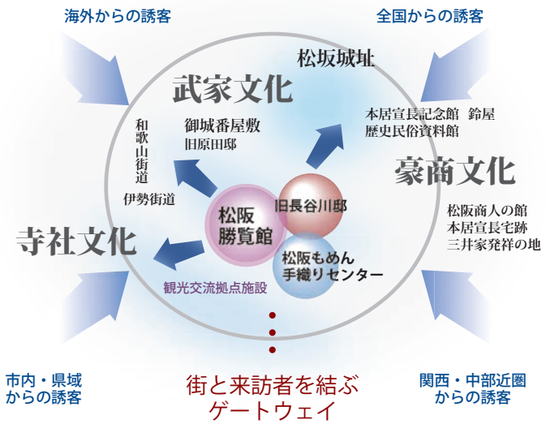
「松阪勝覧館」※

※本居宣長 16 歳の著述「松坂勝覧」。当時の町名・通り名・名所・寺社の祭事などを紹介する観光ガイドブックとしての性格を有するものでした。

松阪の歴史文化の由緒をものがたる、市民が参画する観光交流拠点を目指します。

●観光交流拠点施設の方向性

現代版「松阪勝覧」の整備を、宣長が大切にした「好・信・楽」のこころをもって、市民の方々とつくりだしていきたいと考えます。
それは単なる観光情報の提供とは異なり、厚みある松阪の歴史文化の中から、お客様の心に響く“ものがたり”をつむぎ、語ることだと考えます。
“松阪のこころ”にふれ、「教養と実業」のまちのイメージを強く抱かせることで、松阪のまちへとお客様を向わせていきます。



●観光交流拠点施設の３つの役割

好　観光客へ好奇心を抱かせ、松阪への誘客を促す

現代の観光客が気になる「歴史」「文化」「教養」「センス」「食」をキーワードに松阪の観光資源をつむぎ直します。「今行きたい松阪」を発信します。

信　自信持って紹介できる松阪の魅力を物語る

市民とともに地元観光資源を再発見し、「見てもらいたい松阪」を地元・松阪の声で伝えます。市民の郷土への愛着と誇り、地域文化の大切な思いを物語ります。

楽　歴史文化の香るまちを楽しみ、回遊性を高める

観光資源の紹介によるまち歩き案内にくわえ、松阪もめんの試着体験による着こなしや所作、お茶やお花などの教養を身につけて頂き、松阪の豪商文化に触れて頂きます。

観光交流拠点施設の整備イメージ

「松阪勝覧館」の旧長谷川邸との効果的な一体整備

施設をコンパクトにすることで景観に配慮。分棟型にすることにより、旧長谷川邸との一体化と回遊性を実現。

拠点施設は、「松阪もめん」で知られる長谷川家本邸の隣地に整備されます。
「松阪勝覧館」の整備によって、旧長谷川邸（建造物・庭園等）のもつ歴史文化的価値や魅力が高く引き出されるとともに、両施設が一体的に活用されることで松阪観光の大きな魅力形成を目指します。

旧長谷川邸

観光交流拠点施設 (本館) 外観イメージ

外観のポイント

1. 施設のコンパクト化により、旧長谷川邸の蔵・庭園の景観が見えるように配慮します。
2. 景観条例に遵守しながら、まちの景観との調和をはかります。また、旧長谷川邸のもつ建築様式とは異なる外観を形成して、旧長谷川邸の本物のもつ魅力との差別化をはかります。
3. 伝統と新しさを同時に感じさせることで、「古の文化と新たな文化」の発信交流拠点にふさわしい外観形成をめざします。

観光交流拠点施設の構成及び配置・動線計画

構成のポイント
「もてなし」「案内」「紹介」「休憩」「物販」などの機能を有し、なおかつ充分な受け入れ空間を確保、景観への配慮を考慮・検討した結果、建設候補地＝本館のほかに、別館の配置を提案します。
機能分化と事業規模のバランスを実現します。

配置・動線のポイント
旧長谷川邸と観光交流拠点施設の双方からのアプローチを可能にします。観光交流拠点施設は、その機能を効果的に分散する分棟型として、庭園を中心に配置します。回遊性の高い、一体的活用を実現します。

※観光交流拠点施設「別館」の候補地は現在民有地となっています。本提案では、整備効果を見込み提案しておりますが、今後、隣地の市駐車場を活用することも含め検討を行います。